



This is our **Communication on Progress** in implementing the principles of the **United Nations Global Compact** and supporting broader UN goals.

We welcome feedback on its contents.



---

# Communication on Progress

## 2020年度報告

対象期間 : 2020年1月～2020年12月

---

### 原田鋼業株式会社

2021年1月24日

トップステートメント	p.3
グローバル・コンパクトの 10 原則	p.4
会社概要	p.5
2020年度活動の基本方針	p.6
人権分野に関する活動報告	p.7
労働分野に関する活動報告	p.8
環境分野に関する活動報告 (その 1)	p.9
(その 2)	p.10
腐敗防止分野に関する活動報告	p.11
その他の活動報告 (地域貢献を目指して)	p.12
(世界の子供たちのために)	p.13

国連の提唱する人権、労働、環境および腐敗防止に関する普遍的原則である『国連グローバル・コンパクト』に、当社は2011年1月から参加しています。

社内外での積極的なCSR活動の取り組みを通じて、グローバル企業として責任ある経営を推進し、持続可能な社会づくりに貢献してまいります。

2021年1月24日

代表取締役社長

原田憲太郎

---

# グローバル・コンパクト10原則



人権	企業は、 原則 1： 国際的に宣言されている人権の保護を支持、尊重し 原則 2： 自らが人権侵害に加担しないよう確保すべきである。
労働基準	企業は、 原則 3： 組合結成の自由と団体交渉の権利の実効的な承認を支持し 原則 4： あらゆる形態の強制労働の撤廃を支持し 原則 5： 児童労働の実効的な廃止を支持し 原則 6： 雇用と職業における差別の撤廃を支持すべきである。
環境	企業は、 原則 7： 環境上の課題に対する予防原則的アプローチを支持し 原則 8： 環境に関するより大きな責任を率先して引き受け、 原則 9： 環境に優しい技術の開発と普及を奨励すべきである。
腐敗防止	企業は、 原則 10： 強要と贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗の防止に取り組むべきである。

# 会社概要



会 社 名	原田鋼業株式会社
本 社	広島県福山市大門町 5 丁目 6-35 〒721-0926 TEL.084-941-3111 (代表) FAX.084-941-1312
資 本 金	3,000 万円
創 業	昭和 20 年 10 月
設 立	昭和 41 年 8 月 6 日
年 商	51 億 8046 万円 (54 期)
代 表 者	代表取締役会長 原田 弘人 代表取締役社長 原田 憲太郎
従業員数	120 名 (グループ合計)
グループ	福山倉庫運輸株式会社 スチールプロマネジメント株式会社 有限会社クリーンライフ

国連グローバル・コンパクトへの支持を表明して11年目である本年度は、4分野すべてにおける実践的活動を目指すと共に、関連するステークホルダーへのグローバル・コンパクト支持の呼び掛け、及び10原則に沿った会社運営と社員の意識レベル向上を図る。

また、2011年度から取り組んできた「身近で誰もができる活動」の幅を無理のない範囲で広げていくとともに、その活動そのものの定着を目指す。

# 人権分野に関する活動報告



本年度の活動目標・内容		結果と評価		来年度の活動目標・内容
国籍、性別、障害者などに対する差別、偏見の排除	性別による偏見排除のない人事考課の基準作りと、能力、適性に応じた職務、役職、ポストへの適正配置の仕組み作り		本年度は、残念ながら、女性の昇進者は出ず。現在、課長職 1名、係長職 6名、主任職 3名で、女性社員の 13名中 10名が役職者として勤務。	継続して、性別による偏見のない人事に取り組むとともに、能力、適性に 応じた職務、役職、ポストへの適正配置の仕組み作りを目指す。
	評価基準の見直しと評価者への教育		筆記試験、実技試験の標準化と複数の試験官による評価と、評価者同志の意見交換による適正評価の仕組み作りを継続中。 評価の基準も募集する職務に応じた形での改良が行われてきた。	今後も継続して、評価基準の見直しと評価者への教育を進めていくことで、採用における不公平の排除を目指す。
世界の子供たちが安全で健やかに育つ環境づくり支援	マラリア撲滅運動への参加  エコキャップ運動への参加		僅かながらの支援であるが、今年も募金活動を継続することができた。この支援活動は、「身近で誰もがができる活動」からという会社の方針に沿った活動の一つで、継続することに重きを置いた活動を続けている。 参照：その他の活動報告 (世界の子供たちのために)」	今後も継続して、支援活動を行っていく。

# 労働分野に関する活動報告



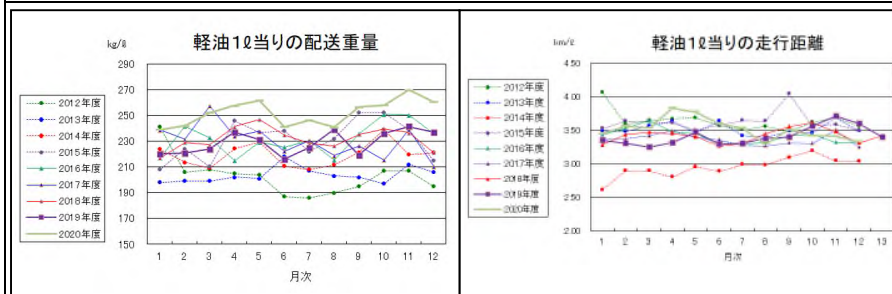
本年度の活動目標・内容		結果と評価	来年度の活動目標・内容
役職、職能レベルの基準作りと教育の仕組み作り	個人別でのキャリア育成を目的とした長期的な教育の仕組み作り	○ 職域別・階層別教育の仕組み作りを継続中。 職域別教育については、各部門にて進めてきた内容の精査と改訂。階層別教育については、総務部主管で、新人、リーダークラス、部門長クラス、事業部長クラスに分け、各階層に応じて求められる職務の明確化と教育計画立案に着手した。 また、昨年より着手した外部コンサルタント導入による「継続的な成果を生み出す現場づくり」を目的としたトレーニングの実施等、社員及び組織のレベルアップを目指した教育も継続中。	個人別でのキャリア育成を目的とした教育の仕組み作りと生涯キャリアの視点に立った教育の仕組みを目指すと共に、その環境での組織の機能向上を目指した教育と仕組み作りを目指していく。
従業員の多様性の尊重	経験と年齢に応じた働きやすい環境作りと遣り甲斐の持てる仕事の提供	現在も現役として経理業務を担当する81歳の社員を筆頭に、70歳代1名、65歳以上4名、60歳以上6名が在籍。 いずれの社員も、役員に就任されたり、部門運営を任せられたり、技術指導であったり、その経験や能力を生かし、責任ある立場で活躍中。	継続して、単に高齢者の雇用に止まらず、その経験と年齢に応じた働きやすい環境作りと遣り甲斐の持てる仕事の提供を目指す。
働きやすい環境の整備	子育て、介護に対する支援制度整備と運用の仕組み作り	子育て支援の一環として、勤務時間帯の変更、子育てのための半日単位での有給休暇取得制度を継続。 今年は、1名の育児休暇取得者があり、来年春には職場復帰の予定。	継続して、働きやすい環境作りとその効果的な運用を目指し、制度の周知とその活用を促していく。 特に、健康管理面では、健康診断結果のフォローとメンタルヘルス対策に力を入れ、健康で働きやすい環境作りを目指す。
	健康管理のための補助制度運用	本年度も、保険適用外であるインフルエンザ予防接種の費用補助として、半額を会社が負担。 また、昨年に引き続き、職場環境に対する「社員相談窓口」と併設で、健康診断結果のフォローを実施。	
	職場環境に対する問題点、要求事項の吸い上げと対応の仕組み作り	○ 現業部門からの要望を取り入れ、暑さ対策としての空調服補充、現場へのスポットクーラー、強力送風機の追加設置等実施。また、寒さ対策としてのインナースーツの補充等、細かな職場改善にも取り組んでいる。	

# 環境分野に関する活動報告 (その1)



本年度の活動目標・内容		結果と評価	来年度の活動目標・内容
輸送効率のアップ	合い積みが可能で配送先の確保と配送ルートの見直しで輸送効率のアップ エコ運転の励行	○ COVID-19の影響で、輸送効率はダウンすると思われたが、お客様の協力もあり、昨年度に比べて「軽油1ℓ当たり配送重量」で11%、「軽油1ℓ当たり走行距離」で3%アップ。	継続して、合い積みが可能で配送先の確保と配送ルートの見直し、及び的確な配車計画の運用で、配送効率の向上を目指す。
梱包資材のムダ削減とリサイクル	梱包用木材の回収率アップと再利用促進	○ 定尺シート用井桁スキットにターゲットを絞り、再度、客先への協力要請を行ったことで、変動はあるものの、徐々にではあるがリサイクル率は上昇。	継続して、お客様へ協力をお願いしてリサイクル促進を図るとともに、自社内でも廃材の有効活用やムダ排除を進めていく。

## < 輸送効率の5%アップ >



### 合い積み配送の促進と配送ルートの見直し

軽油1ℓ当りの配送重量と走行距離の輸送効率指数ですが、集計結果だけを捉えると、この5年間では最も良い結果が得られたように見えます。

今年度は2月以降、COVID-19の影響を受けたため、前年に比べて、配送重量は約25%減、走行距離も約30%減となっております。特に、小ロットでの配送が増えており、従来通りであれば、輸送効率が低下しても止むを得ない状況でした。

しかし、少ない仕事量をカバーするために、例年にも増して合い積みによる輸送集約を図ったことと、この状況を理解して頂いたお客様の協力があった、軽油の使用量も30%削減することができ、この結果となったと思われます。

### ○エコ運転の励行と指導

COVID-19のため、思うように添乗指導は出来ませんでした。このため、給油記録、タコグラフ等の記録を利用した個別指導を行うことで、エコ運転に対する意識付けを図ってきました。

## < 梱包用木材のリサイクル >



### 梱包用木材のリサイクル

昨年より、「定尺シート用スキットの回収率アップ」の活動に力を入れてきました。

この「定尺シート」とは、標準的なサイズの切板に使用する井桁スキットのことで、サイズが決まっており、再利用し易い梱包用木材です。しかし、実際に回収するとなると、「定尺シート」を使用する最終需要家から回収する必要があり、その間には鋼材問屋等の存在、当社にとってのお客様の協力が不可欠です。

今年は、このお客様への協力の呼び掛けと、配送担当による回収の仕組作りにより力を入れてきました。

この結果、活動を始めた当初のリサイクル率は20～30%程度でしたが、今年度末には50～60%程度まで押し上げることが出来ました。

勿論、リサイクル率は自体、その月の出荷量に比例するものではなく、最終需要家の消費状況によっても変動します。このため、今後も活動を継続し、最終需要家やお客様の協力を仰ぎつつ、安定的な回収の仕組作りを目指します。

# 環境分野に関する活動報告 (その2)

本年度の活動目標・内容		結果と評価	来年度の活動目標・内容
工場全体としての生産効率向上と無駄なエネルギー消費削減で省エネ工場実現	クールビズ、ウォームビズ 無駄な照明、待機電力等の削減	日常業務の中での電力削減活動は定着。 一部残っていた古いIT機器等の省エネタイプへの変更も完了し、電力削減に寄与。	今後も継続して、省エネ活動、生産効率向上活動を進め、省エネ工場実現を目指す。
	第7工場へ生産集約、作業効率改善、再生可能エネルギー活用で、加工重量当たりの実質購入電力 30%の削減	太陽光発電の安定稼働と加工重量の減少のため、加工重量当たりの実質購入電力量は昨年比 46%減。加工重量当たりの使用電力量は昨年比 18%減。	

## 無駄な電力の削減



### クールビズ&ウォームビズ

エアコンの温度設定は当然。サーキュレータ、扉の開閉、ブラインド及び遮光フィルム活用で太陽光調整等々。

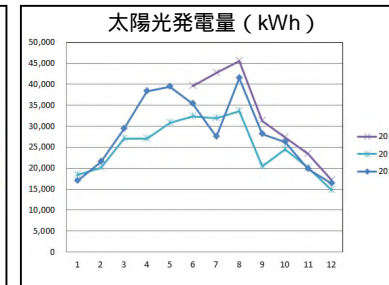
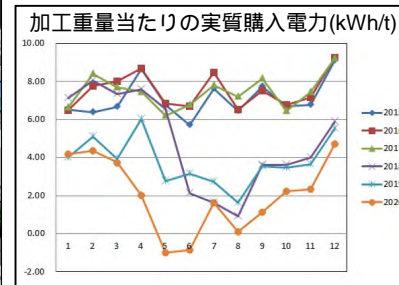
冷暖房効果を高める活動も継続して行っています。

### 無駄な電力削減

無用な照明、装置類の電源OFF。

待機電力削減に加え、IT機器等の省エネ機器導入も完了。来年は、計画延期となった照明機器等の省エネタイプへの変更も計画しています。

## < 省エネを目指した工場 >



### 省エネ工場を目指して

最先端のスリッターライン、レベラーシャーラインの導入による「高効率な生産設備」、太陽光発電による「再生可能エネルギーの活用」と言うハード面での準備は2018年に整い、現在、運用面での効率化を目指しています。

特に、2018年5月より開始した太陽光発電も順調に稼働。総発電量は2019年 301MWh、2020年 340MWhと安定して稼働中。総使用電力量に占める割合も2019年は47%、2020年は65%となっています。

また、加工重量当たりの使用電力量について見ると、各ラインの更新完了以降、2016年 7.46kWh/t、2017年 7.42kWh/t、2018年 7.46kWh/tと横這いでしたが、2019年は7.18kWh/tに減少。2020年は5.90kWh/tと言う値でした。

この数値は、加工内容によっても変化する値で、一概には言えませんが、昨年より全社的に取り組んできた作業改善の成果もあったと思われます。

ただ、今年はCOVID-19の影響で、年間加工量が前年比 80%程度に減少。特に4~6月は前年比 64%、46%、62%まで落ち込み、5~6月は好天に恵まれたことも相まって、売電量が使用量を上回る月も発生しました。

先行きは不透明な部分もありますが、「加工重量当たりの使用電力量」を一つの指標として、今後も社員一丸となって、省エネ活動と作業の効率化を進め、より「高効率な工場」を目指していきます。

# 腐敗防止分野に関する活動報告



本年度の活動目標・内容		結果と評価		来年度の活動目標・内容
官公庁等の入札に関する談合への関与禁止	入札への積極的参加の姿勢を示すことにより、業界内での不当な価格操作を排除		件数は少ないものの、入札物件に対する直接応札を行うことで、当社の姿勢を業界内に示す活動を継続中。業界内での公正な競争が行われる下地作りを推進中。	継続して、この活動を進めることで、談合等の腐敗防止を目指す。
得意先や仕入先との適切な関係	仕入先への情報提供と協議の場を設けることで、健全なサプライ・チェーン構築		苦情、クレーム等を含む顧客要求について、仕入先、外注先との情報共有を図るとともに、意見交換の場としての定例会議をWeb会議の形で開催。サプライ・チェーン内での仕掛品、製品の運送に関する効率化、並びに検査体制の整備をテーマに改善を進め、ロスコスト削減に努めた。また、取引契約の見直しと更新を含め、相互の健全な取引条件の設定を行い、協力体制の強化を図った。	継続して、仕入先への情報提供と協議の場を設けることで、健全なサプライ・チェーン構築を目指す。
	交際費等の明確化による社内自浄活動の推進		以前からあった事前申請の仕組みを徹底させることで、社員への意識付けには役立った。	継続して、啓蒙活動を行うことで、強要や贈収賄の発生しない土壌を維持していく。

# その他の活動報告 (地域貢献を目指して)



## スポーツ活動

### < 卓球部 >

2020 年度後期日本卓球リーグ 1部 / 全日本社会人 / 天皇杯・皇后杯

後期リーグ戦(1)



後期リーグ戦(2)



後期リーグ戦(3)



後期リーグ戦(4)



後期リーグ戦(5)



一部昇格で臨んだ日本卓球リーグ。  
COVID-19 のため、前期リーグ戦は中止。  
感染防止のため、春先から夏にかけて、十分な練習もできない状態も続きました。  
どうにか実施できた後期リーグでしたが、ホームマッチは中止。リーグ戦も無観客で開催されました。  
このようなリーグ戦は初めて。ただ、試合は WEB 配信されたため、地元の方にも全試合を見て頂く機会が持てたのは、幸いでした。  
成績の方は、0勝 6敗 1分けで 8位。  
残念ながら、1部の壁は厚く、来年は 2部からの出発となりました。  
来年こそは、1部昇格、そして 1部残留を目指します。

全日本卓球選手権



全日本卓球選手権



全日本卓球選手権



コロナ騒動が始まる前の 1月に開催された全日本卓球選手権には、シングルス 4 名、ダブルス 3組、中国電力とペアを組んだ混合ダブルス 2組が出場。  
シングルスは 4 回戦、ダブルスは 3 回戦、混合ダブルスは 4回戦が最高の成績でした。  
残念ながら、秋に行われる予定でした全日本社会人卓球選手権大会は、中止となっています。

### < フットボールクラブ >

広島県社会人サッカーリーグ

試合前に



試合中



中盤で



中盤で



去年は、中国リーグから降格。  
再度、中国リーグ昇格を目指し臨んだ広島県社会人 1部リーグでしたが、ここでも COVID-19 の影響が。  
リーグ戦は、出場辞退のチームもでる事態でしたが、A ブロックで 4 勝 1敗の 2 位。  
代表決定戦で敗退。  
残念ながら、来年も広島県社会人 1部リーグからの再出発となりました。

### < 剣道倶楽部 >

地域に根差した活動

昨年の大会風景



COVID-19 の影響で、全ての大会が中止。  
それどころか、仕事の合間に行っていた子どもたちへの指導や、試合での審判なども難しい状態になってしまいました。  
来年こそは、良い年になりますように！

# その他の活動報告 (世界の子供たちのために)

## マラリア撲滅運動への参加

「JC I Nothing But Nets キャンペーン」



UNITED NATIONS 国連基金協働事業  
JC I NothingButNets キャンペーン

**マラリア撲滅運動**

マラリアは夜行性の蚊を媒体とする死亡率の高い感染症であり、毎年2億4700万人が感染し100万人の尊い命が失われています。その多くは5歳以下の幼い子どもたちです。

感染を防ぐ最も効果的な対策として、国連が推奨する殺虫効果のある蚊帳の中で寝ることが有効であると実証されています。

この殺虫効果のある蚊帳をひとつの家庭に配布する費用は、たったの1,000円です。

私たち全国704の青年会議所メンバーは尊い命を救うために、地域の皆様と共にマラリアと戦います。

**あなたの一本が命を救う**

この販売機の売上げの一部でマラリアに苦しむ子どもたちの命を救うネットを購入させていただきます。お買い上げ頂きありがとうございます。

お問い合わせ先 JCI

本社  
大阪支店  
東京支店

国際青年会議所と国連基金との共同事業の一つである「JC I Nothing But Nets キャンペーン」に、当社も参加しています。

写真のような自動販売機で飲料を買うと一定金額が寄付され、殺虫剤処理された蚊帳がアフリカに送られるという仕組みです。

2012年途中より、この自動販売機を本社、大阪支店、東京支店の3箇所に設置しました。

社員や近隣の方の協力もあり、義援金も2013年 52,913円、2014年 57,254円、2015年 57,492円、2016年 59,577円、2017年 59,593円、2018年 55,230円、2019年 47,582円。そして、今年は36,612円。

COVID-19の影響で休業や在宅勤務が多かったためか、金額的には少し伸び悩みましたが、どうか継続して寄付することができました。

## エコキャップ運動への参加



**地球に愛を 子どもに愛を**

ペットボトルのキャップを集めて  
世界の子供たちにワクチンを届けよう!

ゴミとして焼却処分されると  
キャップ430個で3,150g  
のCO<sub>2</sub>が発生します。

あなたの行動が世界の子供と地域の未来を創ります!

小さなキャップでも、分けば資源!  
リサイクルして環境ある材料に。

ペットボトルのキャップをみんなで集めよう!  
キャップは430個で10円になります。

ポリオワクチンは1人分20円!  
キャップ680個で一人の子どもの命が救えます。

※資料「メーカ―自治体連携推進協議会」よりキャップの集まり方・処分方法が詳しく記載されています。

キャップ回収  
エコキャップ推進協会  
NPO法人(内閣府認定)  
エコキャップ推進協会  
ECOCAP

リサイクルセンターへ  
回収箱へお持ち帰り  
「世界の子供たちにワクチン」  
日本国際連合 (JCI)

ペットボトルのキャップで世界の子供たちにワクチンを届けよう!

事務所で



イベント会場で



家庭で集めて



2012年途中から始めたエコキャップ運動ですが、本社及び各支店に回収BOXを常設するとともに、来訪された方々へも協力の呼び掛けを行って参りました。

今では、恒例行事のように、わざわざ当社にキャップを持って来てくださる方もいらっしゃいます。

皆様のお蔭で、2013年約3,500個、2014年約3,800個、2015年約3,900個、2016年約4,500個、2017年約4,600個、2018年約5,200個、2019年約4,900個と、若干の増減はありますが、徐々に増えてきました。

しかし、今年は約3,700個と減少してしまいました。社内自動販売機の売上が減ったのも、その原因の一つと思われます。

来年は、元の状態に戻ることを期待すると共に、PRの方法にも工夫して、ささやかながら世界の子供たちのために頑張りたいと思います。